

- ・新年のご挨拶
- ・もの忘れセンターの診療について
- ・前立腺癌の治療
- ・デジタルマンモグラフィの導入と
PACSの稼働

contents

- ・認定看護師7領域に
- ・摂食嚥下チームがスタート
- ・18年度手術件数大幅アップの見込み
- ・年末年始の診療記録

新年あけまして おめでとうございます

病院長 東原 英二



杏林大学病院では患者様に、良質で安全な医療を提供するため日々努力をしております。昨年は、救急治療の要望に出来るだけお応えするための「救急初期診療チーム」、初期医療が決め手になる脳卒中患者様のための「脳卒中センター」と認知症の専門診療を行う「もの忘れセンター」を開設しました。

本年は、8月から新外科病棟を運用開始します。昨年は、当院における手術件数が大幅に増加しましたが、その需要に応え、またよりよい治療環境を患者様に提供できるものと考えております。

地域の皆様に役立つ杏林大学病院として職員一同努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

2007年1月

さらなる地域医療連携を

副院長（地域医療連携担当） 呉屋 朝幸



昨年は、各医療機関のご協力、院内各部署の支援を得て、地域医療連携をスタートできました。いただいたご協力、ご支援には感謝申し上げます。

本年はさらに、地域の方々のために地域医療機関との医療連携を更に深化させます。そして、各医療機関と協力のうえに、この地域で切れ目のない、高い水準の医療サービスの構築に努めます。

本病院としてもさらに内部の体制改革を進めます。そして地域住民の皆様の健康を守ります。

2007年1月

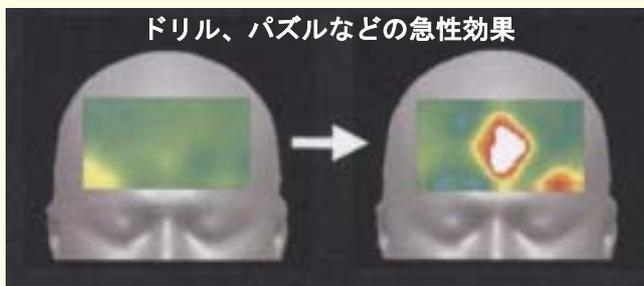
第2回多摩メディカルマネージメント研究会が平成18年11月22日に当院の大学院講堂において17医療機関の参加により開催されました。当研究会は、多摩地区にある医療機関の事務職員を対象とした医療連携や運用に関する研究会です。第3回は武蔵野赤十字病院で開催する予定です。

もの忘れセンターは昨年11月14日にオープンし、月曜日・金曜日の毎日新患を受け付けています。開設以来の新患は96名で、年間換算で570名と昨年の約2倍のペースで順調に推移しています。予約なしで午後初めていらした方には、当日は心理検査を行い、次回に診察と、画像検査予約となります。保険外診療として、家族相談・回想法・光トポグラフィの機能診断があります。個人回想法は15名以上が治療を行っています。1月より、集国家族指導を週2回開始しました。1回5家族限定で、すでに1月は満員で受付を締め切っています。

同時に開設している転倒予防外来では、全例に重心動揺計と歩行検査などの転倒検査を行い、国内では初めての転倒手帳を配って転倒予防、記録を行っています。患者様への御案内、御紹介をお願いいたします。

もの忘れセンターの診療について

もの忘れセンターでは、光トポグラフィを用い、どんな刺激が、あなたの脳の活性化に役立つか診断して、家庭での脳活性化訓練方法をアドバイスします。



回想法はこんなことをします

- (1) 介護にあっている方から、患者様のプロフィールをお聞きます。
- (2) 毎週1回1時間計8回行います。
- (3) 記憶の不確かなところを御家族に手助けいただきます。
- (4) 思い入れのある時代から開始し、少年期から壮年期までを、その時代の背景、風俗、社会状況を織り交ぜつつ進行します。
- (5) けんだま、おはじき、めんこ、5つ玉の算盤、懐中時計、ラムネの空き瓶、大正・昭和初期の小中学校の教科書、昭和初期から30年代にかけての古写真集等を使用します。
- (6) 終了後、効果判定をいたします。



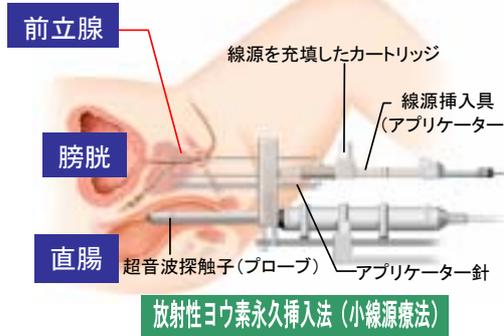
【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
TEL 0422-47-5511 (代表)
ホームページ <http://www.kyorin-u.ac.jp>

■前立腺癌の治療について

前立腺癌は、男性高齢者の代表的な悪性腫瘍です。治療法は手術療法、放射線療法、超音波療法、ホルモン療法と多岐にわたっています。

現在、杏林大学泌尿器科では、国内でも他に例を見ない全ての治療オプションを揃えて治療に取り組んでいます。

- ①開腹での前立腺全摘除、
- ②腹腔鏡下前立腺全摘除、
- ③放射性ヨウ素永久挿入法（小線源療法）、④高線量率組織内照射、⑤強度変調放射線治療（IMRT）、⑥高密度焦点式超音波（HIFU）治療を、患者さんの年齢・希望、前立腺癌の進行度・悪性度に応じて治療を行っております。



■デジタルマンモグラフィ装置の導入と

PACS（フィルムレス）の稼働

放射線科では、高画質で患者様にも優しく、また、生検（デジタルバイオプシー）にも対応可能なデジタルマンモグラフィ装置（シーメンス社製）を導入しました。乳がんの早期診断・早期治療にさらに大きく貢献できるものと期待しています。撮影は認定資格を持った女性技師が中心となります。



また、前号でお知らせしたPACS（放射線画像のフィルムレス運用）も順調な経過で運用され、今年度中には一般撮影も含め全面的なフィルムレス運用となります。

■認定看護師 7領域に

2006年8月に認定看護師認定審査の結果が発表され、全国の認定看護師が2,000人を突破しました。

当院でも、糖尿病看護・WOC：がん化学療法・感染管理・重症集中ケア・新生児重症集中ケア・救急看護の7領域で14名の認定看護師が在籍しています。

今後さらに、ホスピスケア、認知高齢者ケアの2領域の認定看護師が誕生する予定です。また、がん専門看護師が、がん相談外来や緩和ケアを担当しています。

認定看護領域は全部で17領域ありますので、その4割を超えたこととなります。

当院の認定看護師は、常に質の高い看護を提供できるように、看護専門外来の開設、職員への教育・相談など、それぞれの専門性を活かして活動しています。

■摂食嚥下チームがスタート

適切な摂食法の管理、指導によって気道感染を予防することは、早期の退院と社会復帰を促進し、QOLを改善するために不可欠です。摂食嚥下に関する知識を深め、多職種連携体制の構築、診療技術の改善、および病棟機能強化の推進を目的とし、専門的知見から診療をサポートするべく、診療ガイドラインの作成、教育・研修活動、疫学的サーベイランスを活動の三本柱として摂食嚥下チームが活動を開始しました。皆様のご協力をよろしく願います。



■18年度手術件数、大幅アップの見込み

今年度も残すところあと3ヶ月となりました。12月31日現在、手術件数は順調に増えており、前年度6342件に対して、今年度7077件で、12%増加しました。診療科毎の内訳は表のとおりです。

診療科	18年度	17年度	前年度比
眼科	2028	1987	+41
形成外科	936	824	+112
消化器外科	677	628	+49
整形外科	596	555	+41
泌尿器科	514	384	+130
心臓血管外科	346	256	+90
呼吸器・乳腺外科	342	302	+40
耳鼻咽喉科	308	237	+71
脳神経外科	295	229	+66
婦人科	283	301	-18
産科	256	201	+55
小児外科	230	223	+7
皮膚科	95	32	+63
救急医学	44	21	+23
その他	127	162	-35
合計	7077	6342	+735

単位 (件)

■年末年始の診療記録

(表I)

	18年度	17年度	
患者数(人)	1,721	1,529	
救急車台数	1・2次救急	157	112
	3次救急	29	29
3次救急患者数(人)	35	32	

(表II)

診療科別患者数 (人)

平成18年12月28日-平成19年1月4日

診療科名	A T T		内科	外科	精神科	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科
	内科	外科							
患者数	414	23	99	48	13	255	1	32	4
診療科名	整形外科	皮膚科	形成外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	SCU	合計
患者数	141	166	67	56	239	113	42	8	1721

平成19年1月5日庶務課調べ

昨年12月28日午後4時30分から本年1月4日午前8時30分までの年末年始期間中に、けがや急病で来院された患者様は1,721人で前回同時期に比べて192人増となりました(表I)。診療科別患者数などは(表II)のとおりです。